



平成27年度 狂犬病予防定期集合 注射の実施について

狂犬病は人を含めた全ての哺乳類に感染します。

狂犬病ウイルスをもつ動物に咬まれることにより感染しますが、犬が人に対する主な感染動物です。発症すると効果的な治療法がなく、世界中で年間3万~5万5千人の人が亡くなっています。狂犬病の予防とまん延を防止する唯一の方法が狂犬病予防注射です。

市では、次のとおり小学校や各支所などで「狂犬病予防定期集合注射」を実施します。犬の飼い主のみなさんは飼い主の責任として、ワンちゃんに狂犬病予防注射を毎年必ず受けさせましょう。

平成27年度狂犬病予防定期集合注射の日程/会場

実施日	会場/時間			
	9:00~10:00	11:00~12:00	13:30~14:30	15:30~16:30
5月10日(日)	泊小学校	開南小学校	古蔵小学校	曙小学校
5月17日(日)	若狭小学校	城岳小学校	石嶺小学校	真地小学校
5月24日(日)	高良小学校	仲井真小学校	松島小学校	城北小学校
5月31日(日)	石田中学校	古蔵中学校	金城小学校	大道小学校
6月7日(日)	小祿支所	那覇市保健所	真和志支所	首里支所

※集合注射の接種料金は3,200円です。※狂犬病の予防注射は、動物病院でも接種できます。(料金等については動物病院へご確認ください) ※犬の登録がまだの方は、注射会場で登録も行えます。(登録手数料3,000円)

平成26年度

飼い主のいない猫の 不妊去勢手術実施結果



市では、平成26年8月からの6か月間、市内12か所の公園などで飼い主のいない猫に不妊去勢手術(観光客に快適な都市環境創出事業)を実施しました。

この事業は、沖縄振興特別推進交付金を活用して市内の観光地周辺にいる飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施すことで繁殖を抑制し、徐々にその数を減らすことで飼い主のいない猫によるフン尿被害や道路で車でひかれて死ぬ轢死(れきし)などを減少させ、周辺の環境整備、観光客の満足度の向上を図ることにより、本市の観光振興につなげることが目的です。

平成26年度 飼い主のいない猫の不妊去勢手術の結果

実施箇所	オス	メス	計
市内観光地周辺の公園等12か所	168匹	138匹	306匹

※個々の実施場所については公表を控えます。

お問い合わせ 環境衛生課 ☎951-1530

発令中 ハブ咬症注意報

発令期間:平成27年5月1日~6月30日

県内には猛毒を有するハブが生息し、年間100件前後のハブ咬症被害が出ています。気温が高くなるこの時期はハブの活動が活発になり、加えて農作業や行楽で田畑や山野への出入りの機会も増えるためハブ咬症被害も多く発生します。

ハブ咬症被害は、私たちの注意により未然に防止することができます。田畑や山野、草地等への出入りや夜間歩行する際には十分に注意するよう心がけ、日頃から草刈やネズミの駆除など敷地内の環境整備を行ない、ハブが生息、侵入しにくい環境を整えましょう。



もしハブに咬まれた場合は、 落ち着いて次のように行動しましょう。

- ① 激しい動きをしないで、近くにいる人に助けを求めましょう。
- ② 応急処置として傷口から吸引器等で毒を繰り返し吸い出しましょう。
- ③ すぐに医療機関で治療を受けましょう。

那覇市内でよく見かける4種類のヘビ



ハブ(毒あり)
1m30cm~2m20cm

頭の形が三角形で黄色か白に黒いかすり模様。ネズミを食べるので家の近くにも多い。生まれたときの体長は約40cmで2mくらいまで成長し、仔ハブでも猛毒を持っている。



アカマタ(毒なし)
1m30cm~1m80cm

赤と黒のしま模様、トカゲ・ヘビ・小鳥、小哺乳類などを食べる。※ハブと間違えることがある。



ガラスヒバア(弱毒)
80cm~1m10cm

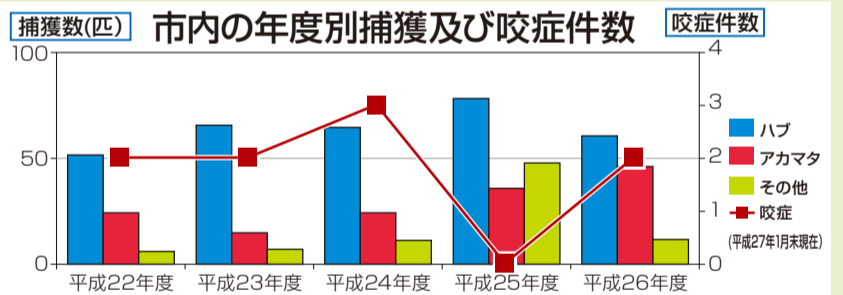
黒地に白い横じまと斑点がある。カエルを食べるので水辺に多い。



リュウキュウアオヘビ(毒なし)
70cm~90cm

背中は緑色で腹は黄色。ミミズを食べる。(別名:オーナジャー、アオダイショウ)

写真提供: 沖縄県衛生環境研究所



※その他のヘビ類はリュウキュウアオヘビやガラスヒバアです。

お問い合わせ 環境衛生課 ☎951-1530

参加すること、誰でも
協働には、誰でも
参加することが出来る

那覇西高等学校では「赤ちゃんが先生教室」と題し、保育体験実習を隣接する金城児童館で行っています。講師に市の母子保健推進員を招いて、妊娠から出産までの成長過程を学びます。そのあと、児童館(つどいの広場)にお母さんと一緒に訪れる、赤ちゃんに触れ合い、お母さんからあやし方のアドバイスをもらうなど、地域交流も図っています。

「協働」に参加しているのは推進員さんだけ、というイメージですが、参加した高校生には、育児するお母さんや赤ちゃんの気持ちを考えてもらいます。そして赤ちゃんとお母さんは、先生となって参加しています。このような交流によって、これまで経験したことのない感覚や価値



お母さんの気持ちを考えることは将来の自分を見つめることにつながる

観が生まれることもあるのです。互いのよりよい未来のために行動する、それが那覇のまちづくりに参加する、「協働への参加」になるのです。実は、気づかないうちに、みなさんも「協働」に参加していきつつあります。

市では、よりよい那覇のまちを目指して、協働によるまちづくりをすすめています。

「協働って、ぼんやりしていて、よく分かんない」という方のために、実際に取り組んでいる様子などを伝えながら、協働について一緒に考えるコーナーを連載でお届けします。

第1回目は、今年度に定めた「協働による那覇のまちづくり」について、「協働」を広げていくための9つのキーワードを掲げていきます。これらの基本的な「約束」を1つずつ解説していきます。

協働による那覇のまちづくりのために ~笑顔が輝くまち~

- 協働には、誰でも参加することができる。
- 協働に参加する者は、目的を共有する。
- 協働に参加する者は、平等で対等である。
- 協働に参加する者は、役割を分担する。
- 協働に参加する者は、お互いを理解し、尊重し合う。
- 協働に参加する者は、情報を提供し合い共有する。
- 協働の過程や結果は、記録に残し、公開する。
- 協働の過程や結果は、ふり返り、そのあり方を見直す。
- これらは、必要に応じて見直す。



ひろげよう
協働による
楽しいなほの
まちづくり

第1回

